



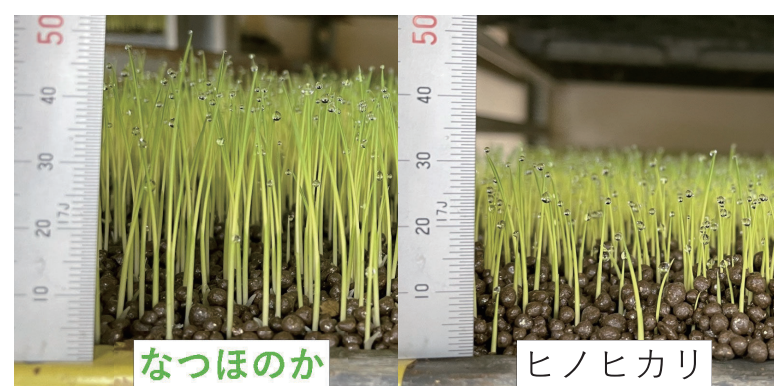
ここが大切！7つの栽培ポイント

「なつほのか」の生育目標

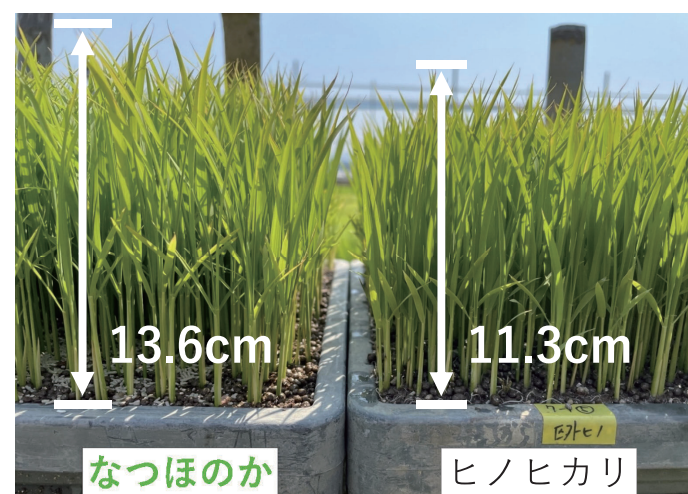
最高分けつ期	成熟期	収量構成要素					収量
		穂数	籾数		登熟歩合	玄米千粒重	
茎数	稈長	本/㎡	粒/穂	粒/㎡	%	g	kg/10a
450~500	85	350	85	3万	85	23~24	600

① 苗の伸ばしすぎに注意

- 「なつほのか」は「ヒノヒカリ」に比べて、**苗が伸びやすい**ため、緑化と硬化は「ヒノヒカリ」より1~2日早く開始し、**3cm程度で被覆資材を外し**屋外に広げましょう。



なつほのか ヒノヒカリ
播種3日後の苗の比較



なつほのか ヒノヒカリ
播種20日後の苗の比較

② 苗箱施薬は必須

- 「なつほのか」は「ヒノヒカリ」と同様に**いもち病に弱い**ため、必ず**いもち病に効果のある育苗箱施用剤**を使用しましょう。
- ウンカ対策**として、**トリフルメゾピリム成分**を含んだ薬剤の使用が有効です。

③ 肥料は施肥基準量を守る

- 窒素施肥量は以下の施肥量が基本です。
- 堆肥を多量に施用した圃場や肥沃な圃場**では倒伏防止、いもち病防止のため、**基肥を減量**しましょう。

分施肥系			全量基肥(一発肥料)	
基肥	穂肥		基肥	備考
窒素施肥量 kg/10a	窒素施肥量 kg/10a	施用時期	窒素施肥量 kg/10a	
4	3	幼穂長2~10mm (出穂22~17日前)	7	移植同時施用の場合は 溶出期間 90日タイプ を使用する。

※施用時期が移植より極端に早い場合は、溶出タイプを考慮すること。



幼穂長2mm 10mm



分施肥系の場合、穂肥施用のタイミングは**幼穂長2~10mm**(出穂22~17日前)です。「ヒノヒカリ」より出穂が早いため、**遅れないように注意**しましょう。

④ 適切な栽植密度

- 安定的な収量、品質を確保するため、植付株数は**坪あたり50~60株**(株間22~18cm)を目安としましょう。
- ※極端な疎植は、茎数不足により穂数が確保できず収量が低下する恐れがあります。
- ※極端な密植は、過繁茂による病虫害発生や倒伏を助長します。

⑤ 中干しと間断灌水で生育をコントロールする

- 生育状況に合わせて、**中干しを確実に実施**しましょう。**茎数が1株20本程度**になったときが、中干しを開始する目安です。
- ※田の表面が軽くひび割れる程度まで実施してください。
- 中干しをすることで、**倒伏軽減**や**登熟向上**につながります。
- 早期落水は避け、収穫に支障が出ない程度に**収穫直前まで間断灌水**を行いましょう。

⑥ 病虫害に要注意

- 病虫害の発生を助長する多肥や極端な密植栽培を避け、**発生予察情報**に基づいた防除を行いましょう。
- いもち病**には「ヒノヒカリ」と同様に**弱い**ため、**防除を徹底**しましょう。
- ※葉いもちの発生を確認した場合は直ちに防除してください。
- 「なつほのか」を「ヒノヒカリ」作付地域に植える場合、**出穂が早い**ため**カメムシ類が集中**します。**適期にカメムシ防除**を徹底しましょう。



葉いもちの病斑



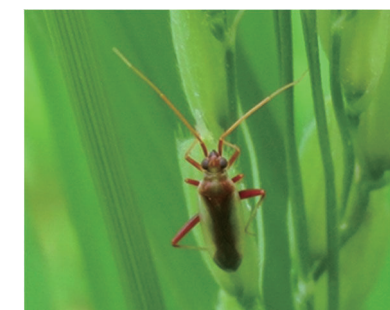
クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



イネカメムシ



アカスジカスミカメ

斑点米カメムシ類

写真出典 病虫害対策チーム原図

トビイロウンカについては、県が発表する警報・注意報に注意し、対策を行ってください！



↑発生予察情報は
こちらのサイトで確認できます
(病虫害対策チームHP)

⑦ 適期収穫

- 収穫適期は**青籾率が10~15%**のときです。
- 出穂期後からの積算温度**(日平均気温の積算値)は**1050~1150°C**(早限:1000°C、晩限:1200°C)です。
- ※早刈は青未熟粒、刈遅れは茶米や胴割れ米が多くなり、品質・食味ともに低下します。